

(様式1・小学校用①)

令和6年度 学校評価報告

草加市立谷塚小学校

(令和7年2月21日作成)

| | |
|---|--|
| 1 学校教育目標 徳育……やさしく (思いやりのある子) 体育……つよく (たくましく粘り強い子) 知育……かしこく (進んで学ぶ子) | |
| 2 重点目標・努力目標 ○全職員の「熱意・誠意・創意」を結集させ、明るく元気な学校づくりの推進 ・幼保小中を一貫した教育の推進 ・基本的生活習慣の確立 (特に挨拶・返事) ・「授業がわかる・できた・楽しい」が実感できる授業展開の工夫 ・多様性に応じた教育の推進 ・「楽」を大切にした教育活動の推進 ・教職員の働き方改革の推進 ・健康教育の推進 ・報告連絡相談見届けの徹底 (特に見届け) | 3 前年度の成果と課題 成果 ○市の研究委嘱を受け、年3回の授業研究会を中心に相互参観を積極的に実施し、自己肯定感を育成する教育の充実が図られた。 ○行事の改善・廃止を見極め、児童に必要な活動を精選することができた。 課題 ●学力・体力において平均ではなく、下位層に位置する児童への支援指導の更なる充実 ●保護者の悩みに寄り添える場や児童に必要な力を育む場の提供 |

| 4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である] | | | | |
|---|-------------------|---|----|--|
| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 | 評価 | 成果と課題 ○成果 ●課題 |
| I 学校運営に関するもの | ①組織運営 | ・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等 | B | ○目指す学校づくりが教職員の参画意識のもと、組織一体となり円滑に推進できた。 ●一部の校務分掌により、必要な事前確認を怠り職員会議が長引いた。 |
| | ②研究・研修 | ・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成 | B | ○全員の教職員が授業を見合うことで、コミュニケーション能力の向上が図られた。 ●学力向上への共通理解を図り、次年度に向けた取組みの明確化を図る。 |
| | ③保健管理・安全管理 | ・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用 | A | ○警察職員を招いた研修実施後、避難訓練を実施し、不審者への対応力を高めることができた。 ○歯みがき・歯の治療を啓発し、学校歯科保健コンクールで優良校となった。 |
| | ④情報管理・施設設備管理 | ・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用 | A | ○個人情報や会計処理の管理体制が校内管理規程に基づいて周知徹底が図られ、適切に行われた。 ○学校施設課と情報共有し、校内の危険箇所の速やかな修繕を行うことができた。 |
| | ⑤地域との連携 開かれた学校 | ・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化 | A | ○学校運営協議会の協力を得て夏休み学習サポートや保護者相談室を開設することができた。 ○やつかっ子サポート会事務局と連携し持続可能な活動を模索することができた。 |
| | ⑥幼保小中を一貫した教育 | ・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり | B | ○目指す子ども像を共有し、発達段階に応じた各々の手立てで一貫した教育を推進した。 ●乗り入れ教員との打ち合わせの時間を確保し、乗り入れ授業の質を高めていく必要がある。 |

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 | 評価 | 成果と課題 ○成果 ●課題 |
|------------------|-----------------|--|----|---|
| II 教育活動に関するもの | ①教育目標・教育計画 | <ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 | A | <ul style="list-style-type: none"> ○授業時数を見直し、学期末に短縮日課を設定する等、効果的な教育活動を推進した。 ●余剰時数が削減されたことに不慣れなことで学習の進捗に課題が見られた。 |
| | ②教科指導 | <ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの観点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 | B | <ul style="list-style-type: none"> ○放課後や夏休みを活用して低位層の児童に対する個別の手立てを講じることができた。 ●学力を伸ばした教員の実践を広め、効果的な教科指導・学級経営を周知する必要がある。 |
| | ③道徳教育 | <ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 | B | <ul style="list-style-type: none"> ○二分法による授業法の資料提供及び公開授業によって授業の充実が図られた。 ●話し合う道徳的な価値の意識付けや発言への切り返し等、更なる指導力の向上が必要である。 |
| | ④外国語・外国語活動 | <ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 各教科、道徳教育との関連 中学校との連携 | B | <ul style="list-style-type: none"> ○各担任がALTと連携し、外国語活動におけるコミュニケーション能力を育むことができた。 ●T1となる教員の更なる指導力の向上が必要である。 |
| | ⑤特別活動 | <ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 児童会活動 | A | <ul style="list-style-type: none"> ○児童会を中心にいじめ撲滅に関する取組をおこない、児童の意識の醸成が図られた。 ○話し合い活動を充実させ、活発に議論し、主体的な活動や約束等に結び付けることができた。 |
| | ⑥「総合的な学習の時間」の指導 | <ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 | B | <ul style="list-style-type: none"> ○指導計画に基づき、ICTの活用により、まとめや調べ活動を充実させることができた。 ●外部人材の活用や体験活動の充実等、指導計画をさらに充実させていかなければならない。 |
| | ⑦生徒指導 | <ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、児童理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 | A | <ul style="list-style-type: none"> ○いじめを含めた問題行動に対して組織的に取り組み、未然防止、早期解決できた。 ○SSWが教育相談部会に入って情報共有し合い、各々が効果的に支援に当たることができた。 |
| | ⑧キャリア教育 | <ul style="list-style-type: none"> 計画の立案 指導内容の充実 中学校との連携 啓発的経験の充実 家庭、地域との連携強化 | B | <ul style="list-style-type: none"> ○乗り入れ授業や中学校進学へ向けた体験授業を生かしたキャリア教育の充実が図られた。 ●企業や外部から講師を迎え、実際の職についての思考を深めさせる機会を作る。 |
| | ⑨特別支援教育 | <ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 | A | <ul style="list-style-type: none"> ○支援を要する児童の実態を把握し、諸機関と連携しながら指導、支援に努めることができた。 ●特別支援教育について保護者や他の児童に正しく理解できる機会を設ける必要がある。 |
| | ⑩学校図書館教育 | <ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 | A | <ul style="list-style-type: none"> ○イベントを多数開催したり、一度の貸出数を増やしたりすることで、貸出数が向上した。 ○学校司書との連絡体制を密に行い、環境整備を整えることができた。 |
| | ⑪情報教育 | <ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 | B | <ul style="list-style-type: none"> ○タブレット通信を発行し、使用の頻度を高め、授業改善と児童の学習意欲向上が図られた。 ●すき間時間のタブレット使用法等、決められたルールを徹底する必要がある。 |
| | ⑫人権教育 | <ul style="list-style-type: none"> 全体計画の策定 各教科との関連 人権感覚の育成 校内研修の充実 | A | <ul style="list-style-type: none"> ○教職員の夏季研修会を通して人権感覚を意識した授業・生徒指導を周知し、実践できた。 ○外部指導員を招聘し拉致問題を中心とした講話を行い、人権感覚の醸成が図られた。 |

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 | 評価 | 成果と課題 ○成果 ●課題 |
|------------------|--------------------|---|----|--|
| III 特色ある学校づくり | ①一貫教育推進と学力向上 | <ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着 言語活動の充実 自ら学び豊かに表現する力を育てる授業 主体的に運動する授業の実践 | B | <ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション能力の向上を中心に研修を重ね、自己肯定感・自己有用感を育み、中学校区研究発表で市内外に発信できた。 研修の成果を基礎学力の定着と結び付けられるよう、更に研究を深める必要がある。 |
| | ②複合施設の有効活用 | <ul style="list-style-type: none"> 使用計画の作成 谷塚文化センターとの連携 共催事業の取組 | A | <ul style="list-style-type: none"> クラブ活動でホール、各種行事で階段使用等、複合施設の利点を活用できた。 文化センター事業を積極的に児童へ紹介し、事業活性化を児童の体験活動に繋げた。 |
| | ③教育活動や学校活動の抜本的な見直し | <ul style="list-style-type: none"> 年間計画、日課表等各種計画の見直し 地域・保護者との連携方法の見直し | A | <ul style="list-style-type: none"> 清掃活動を週3回業前活動の時間に設定し5校時以降の時間を繰り上げ、教師の教材研究の時間を確保した。 音楽朝会やなわとび大会、持久走記録会等保護者が児童の活動を参観できる機会を増やした。 |

5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

- 学校経営方針の実現に向けて、教職員の具体的目標の指標を自己評価シートに記載し、教科指導・生徒指導・校務分掌等にて目標達成及び貢献できるよう、組織の一員として一人一人が達成を目指し学校全体の教育力を向上させることができた。
- 市の研究委嘱を受け、谷塚中学校区15歳の目指す児童像の達成のための年3回の授業研究会を中心に相互参観を積極的に実施し、授業改善に努め、研究発表会として一人ひとりのよさを認め、自己肯定感を育成する教育の充実を発信することができた。
- 学校運営協議会の協議を通して、日課表の見直し・地域の方との植栽活動・夏休み学習会・保護者相談室等、地域・保護者の意見を取り入れた改善・新たな取組をあらゆる形で実現することができた。
- 放課後学習による下位層に位置する児童への支援の充実、中学年からの教科担任制や授業交換により、あらゆるアプローチから指導の充実が図られた。

6 次年度の改善策

- 研究委嘱の研修により、児童の自己有用感・自己肯定感は高まったものの、諸学力・体力調査において学校の平均値として課題が見られた。研修成果を児童の学習の定着に繋げ、タブレットパソコンを活用した習熟を行う必要がある。
- 学校運営協議会を通して協議を重ね、通学班や立哨指導当番等の保護者や地域の課題について前進させていく。
- 教育計画の更なる見直しを図り、教職員の働き方改革を推進するとともに、学級経営、積極的な生徒指導の方法を共通理解のもと行っていく、より学習に向き合える児童の環境を整備していく。